



ニチロローラー

取扱説明書



 松山株式会社

ま　え　が　き

このたびは本製品をお買いあげ頂きまして誠にありがとうございます。

このロータリーは、作業性能はもちろん、安全性、経済性にもすぐれ、必要な機能はすべてそなえておりますので、必ずご期待にそえる作業ができると思います。

しかしながらその取扱いを誤りますと、正常な機能が発揮できないばかりか思わぬ支障をおこすこともあります。

この説明書には正しい取扱い方法や安全な操作について詳しく書かれております。

ご使用になる前に、本書のすべての事項を熟読の上よく理解され、安全で効率のよい作業を行って下さい。

目　　次

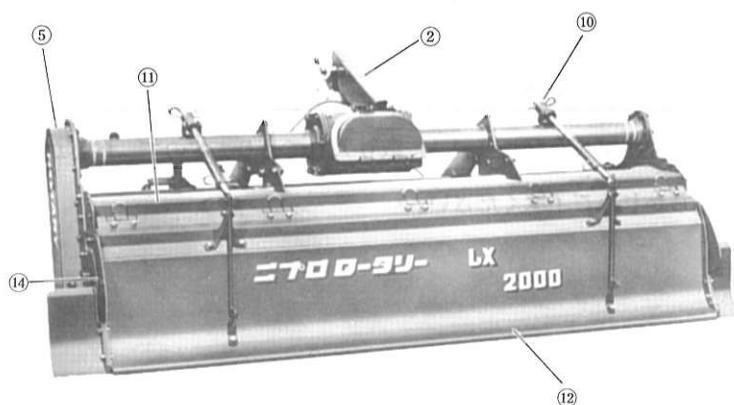
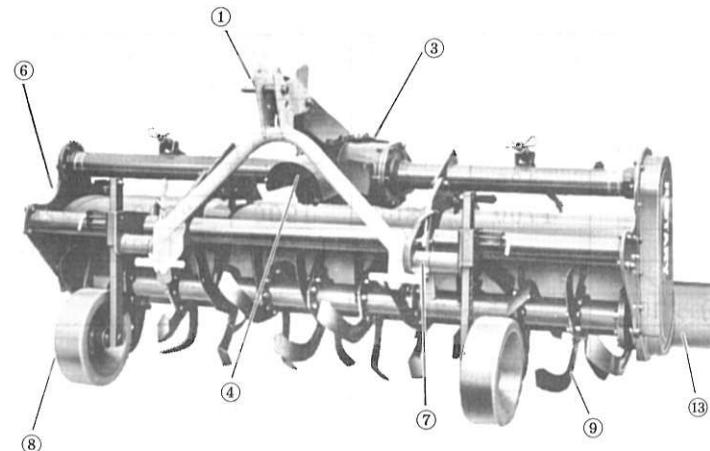
1. 仕　　様	1
2. 各部の名称と組立	4
3. クイックカプラによるトラクタへの取付け	5
4. ジョイントの取付け	8
5. トラクタとの調整	8
6. 点 檢 整 備	9
7. 移動と現場への出入	10
8. 上手な作業のしかた	10
9. 作業時の注意	13
10. トラクタからの取外し	14
11. 耕うん爪について	14
12. 保　守　管　理	16
13. 格　　納	19
14. 安全について	19
15. サービスについて	22
16. 付　　表	23

1 仕 様

型 式	LX-1700	LX-1800	LX-1900	LX-2000	LX-2200	LX-2400
全 長 mm			1180			
全 幅 mm	1882	1982	2082	2182	2382	2582
全 高 mm			1145			
重 量 kg	435	441	454	464	490	516
作 業 幅 mm	1700	1800	1900	2000	2200	2400
作 業 深 さ mm			作図上(標準) 120	(最大)	148	
作 業 速 度 km/h			1.8 ~ 3.0			
作 業 能 率 分 /10a	15 ~ 25		13 ~ 21		12 ~ 19	
爪 軸 回 転 径 mm			(標準) Ø 550			
爪 取 付 方 法			フランジ方式			
爪 本 数	40		44		48	52
適 応 馬 力 P S	45 ~ 80		50 ~ 80		55 ~ 80	
駆 動 方 法			サイドドライブ、チェーン駆動			
P T O 回 転 数 rpm			540			
変 速 方 法			スパーギヤ 交換			
耕 耘 軸 回 転 数 rpm			標準4段、オプション8段(別表)			
装 着 方 法			3点リング直装、クイックカプラ J I S I 、 II			
使 用 ジ ョ イ ン ト			松山規格、A R型			
使 用 耕 う ん 爪	(標準セット) A 7					

本仕様書は不断の研究成果をただちに製品に取り入れておりますので、内容が一致しない場合
もありますので、あらかじめご了承ください。

2 各部の名称と組立



(1) 名 称

- | | |
|------------|-----------|
| ① クイックカプラ | ⑧ ゲージ輪 |
| ② マスト | ⑨ 耕うん爪 |
| ③ ミッションケース | ⑩ 連結ロッド |
| ④ 入力軸 | ⑪ 耕うん部カバー |
| ⑤ チューンケース | ⑫ 均平板 |
| ⑥ ブラケット | ⑬ 延長均平板 |
| ⑦ フック | ⑭ 補助側板 |

(2) 組 立

下表の部品が本体と別れておりますので、前ページ写真と本書の内容を参照して、マスト、ゲージ輪、連結ロット、延長均平板を本体に組付けて下さい。

部 品 名	数 量	摘 要
マ 斯 ト	1	M10×1.25×20 SW付4ヶ、M10×1.25 N、SW付2ヶ
ゲ ジ 輪 左	1	ニギリ軸芯、M12 N、SW付、ニギリ各1
ゲ ジ 輪 右	1	ニギリ軸芯、M12 N、SW付、ニギリ各1
延長均平板左	1	M10×30 SW、N付各2ヶ
延長均平板右	1	M10×30 SW、N付各2ヶ
クイックカプラ	1	トップリンクピン、7号ローターピン各1

(3) 始業の準備

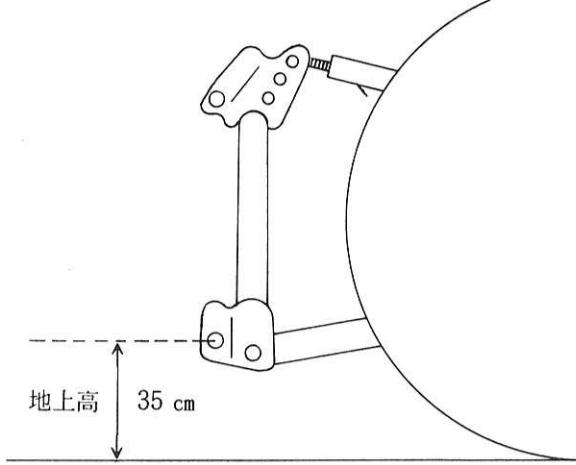
- ① ロータリー及びトラクタを取扱う際は、不用意な姿勢や心構えで取組まないこと。
怪我やギックリ腰の原因になります。
- ② 身仕度は活動的な服装で、靴も適正なものを着用すること。首に手拭を巻いたり、袖口がきちんととしていないなど巻き込まれる恐れのある服装は危険です。
- ③ 運転者及び補助者は、適正なヘルメットを必ず着用すること。
- ④ ゲージ輪は左右を入れることにより、内向きにも外向きにもできますが、トラクタ後車輪の後にくるよう外向きに取付けます。その際スクレッパーはロータリーの爪の方にくるように付けます。

3 クイックカプラによるトラクタへの取付け

このロータリーはクイックカプラ方式を採用していますので、トラクタへの取付け及び取外しが楽にできます。次の順序に従って行いますが、取付位置の詳細は後頁のマッチング表を参照下さい。

注 平坦な足場のよい場所で、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。

- (1) まず、トラクタのロワーリングにクイックカプラを取り付け、リンクピンで抜け止めをします。内側セット(Cat. I)と外側セット(Cat. II)があります。
尚、チェックチェーンはゆるめに張っておきます。

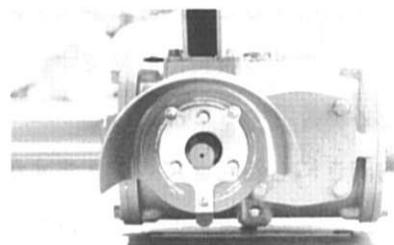


(2) トップリンクは、図のようにセッティングします。但し、トラクタにより取付穴の位置が違いますので、マッチング表を参照下さい。

(3) ロワーリンクの地上高が 35 cm 程度で、クイックカプラが垂直になるようトップリンクの長さを調節します。

(4) ロータリーの入力軸安全カバーは、取付け、取外し時には必ず、下図のように止め板ノブを手前に引き下側に回転させておきます。

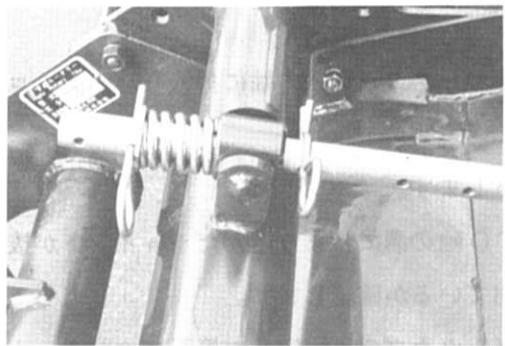
(作業時)



(取付け、取外し時)

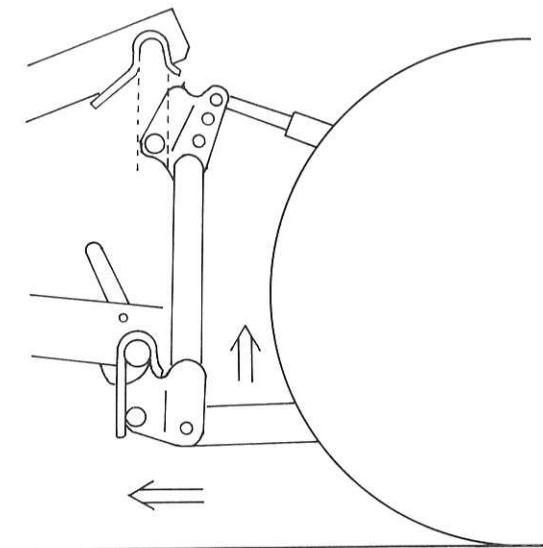


(5) ゲージ輪の止ピンは、取付け、取外し時にはホルダーの上穴で、アームの上から 2 番目のピン穴にセットしておいて下さい。



(6) 均平板は必ず下げて、連結ロッドの7号ロータリーピンを図の位置にセットし、均平板が動かないようにします。

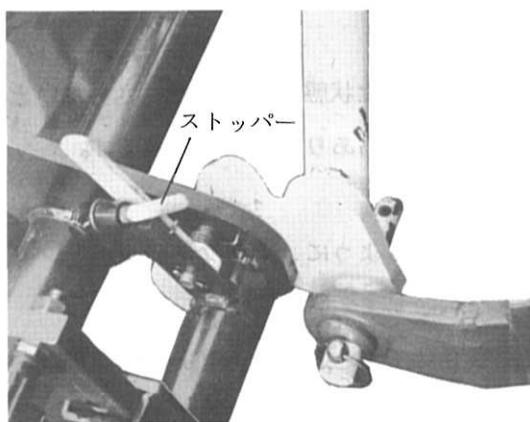
(7) トラクタをロータリーのマスト（中心）に合せて、ゆっくりバックさせます。



(8) まず、クイックカプラの下側を下のU字枠に合せます。

次に、上側の取付部が図のようにマストのU字枠の点線の内側に入っているか確認し、入っていない時はトップリンク長さで調節します。

(9) 静かに油圧を上げて、クイックカプラをU字枠にセットします。



(10) 確実に入ったことが確認できたら、ハンドルをストッパーで固定します。

注 セットするときは、ストッパーが外れていないと入りませんので注意下さい。

4 ジョイントの取付け

- (1) ジョイントのロックピンを押しながらロータリーの入力軸に挿入し軸の溝へロックピンをはめ込み抜け止めをします。
- (2) 同様に、トラクタのP T O 軸にセットします。
注）ロックピンが確実に入力軸及びP T O 軸の溝にはまり込んだジョイントが抜出ないか。ロックピンの頭が10mm以上出ているか確認します。
- (3) ジョイントカバーの回り止め鎖をクイックカプラ等固定した箇所につなぎ、カバーの回り止めをします。
- (4) ジョイントの長さは、装着されるトラクタ型式により異なります。出荷時には、ご注文のトラクタに合った長さのジョイントが付いていきますので、必ずそのジョイントを使用下さい。
注）不適当なジョイントは、故障の原因になります。長すぎると入力軸とP T O 軸を突いてしまいますし、短かすぎると強度が保てません。ジョイントのラップ量は最低120mm以上必要です。
- (5) 装着に際して下側へ回した入力軸安全カバーは、必ず元の位置へ戻してください。

5 トラクタとの調節

- (1) 振れ止め調節
ロータリーの中心（入力軸）とトラクタの中心（P T O 軸）を合せて、チェックチーン左右均等に振れ止めを張ります。
- (2) 前後調節
ロータリーが作業状態で前後に水平（入力軸水平）になるようにトップリングの長さを調節します。
注）トップリングの調節を行う時は、油圧を下げた状態で行うこと。さもないと、トップリングが抜けてロータリーが落下することもありますので危険です。
- (3) 左右調節
ロータリーがトラクタに対して左右水平になるように、トラクタのレベリングハンドルを回してリフトロッド（右）の長さを調節します。
- (4) ロータリーを最上位に上げた状態で回転させますと、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になりますので、回転しても振動、異音の出ない位置に油圧レバーのスト

ッパーをセットして下さい。

6 点 檢 整 備

作業機は正常な機能を発揮させるため、常に点検整備を行う必要があります。機械の状態をつねに知って故障を未然に防ぐには下記点検を毎日欠かさず行ってください。

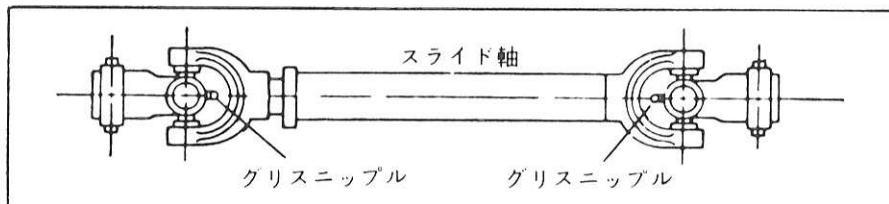
(1) 点検は平坦な広い場所にトラクタを置き、エンジンを止め駐車ブレーキを掛けてから行います。ロータリーを油圧を持上げた上で行う場合は、油圧の落下防止をし、更に台などを耕耘軸の下にはさんで、ロータリーが絶対に落下しないようにしてください。

(1) ボルト・ナットの緩み点検

ロータリーは振動の激しい機械ですから、必ず使用時毎に各部のボルト・ナット類（特に耕耘爪取付ボルト）が緩んでいないか、1つ1つ増締めしながら点検します。尚新品の場合は使用1時間毎に行ってください。

(2) ジョイントのグリスアップ

ユニバーサルジョイントのグリスニップルには使用時毎にグリスアップを行い、スライド軸のオス・メスの間にはシーズン毎にグリスを塗布します。



(3) オイル量の点検

各部のオイル量を点検し、少ない場合はギャオイル#90を補給してください。

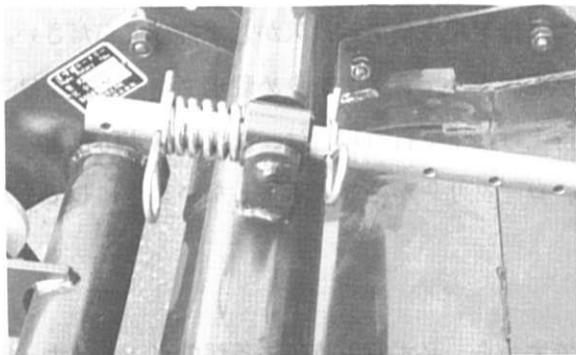
（詳しくはオイル交換の項参照してください。）

- (1) ミッションケース……………オイルゲージの刻み線の間
- (2) チェーンケース……………検油口プラグ面まで
- (3) ブラケット軸受部……………注油口プラグ面まで

(4) 油量を正確にするためロータリーを水平（入力軸）にしてから行ってください。

7 移動とほ場への出入

- (1) ほ場への移動する場合は、油圧でロータリーを完全に吊り上げ、さらに油圧のロック装置により確実にロックします。又チェックチェーンも確実に張れているか確認し、張れていない場合は張ってから走行してください。



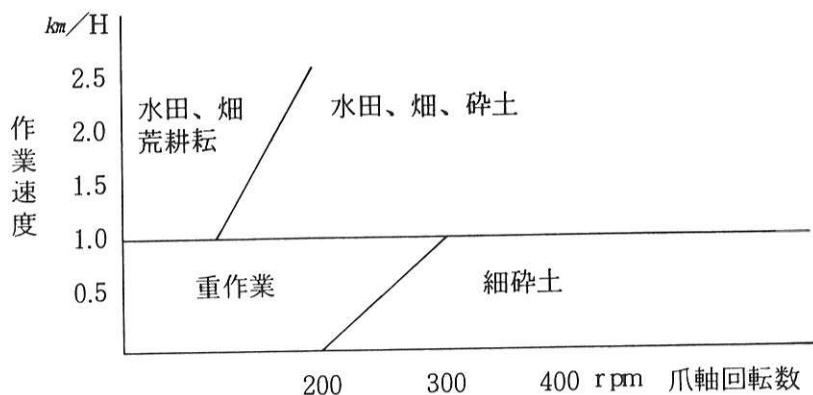
尚、長距離を走行するときには、均平板を下げ連結ロットに7号ローターピンを下穴より10番目に入れ均平板の振れをなくしてから走行しましょう。均平板をフリーの状態にして走行しますと均平板が曲り均平作業性能が出ない事になります。

- (2) 前後、左右に十分気をくばり、安全を確認しながら走行しましょう。又、高速運転、急発進、急加速、急制動及び急旋回は厳につつしみましょう。尚、ロータリーを装着したままで公道は走行しないでください。
- (3) 運転者以外の人や荷物をトラクタやロータリーに乗せて運ばないようにしましょう。
- (4) ほ場への出入りは道路に対し直角に、前進で静かに行いましょう。又、畦畔が高い時は、アユミ板等を使用します。アユミ板は丈夫で滑り止めがある物を使用し、傾斜が14度以下になるように長い物を使いましょう。
- (5) 坂の登りに、トラクタの前輪が浮きあがるとハンドルが利かず非常に危険です。フロントウエイトを着用し、ロータリーを下げて登ります。
- (6) 地上高が不足する場合はトップリンクを縮め、地上高を上げてください。

8 上手な作業のしかた

- (1) 適応作業速度と爪軸回転数

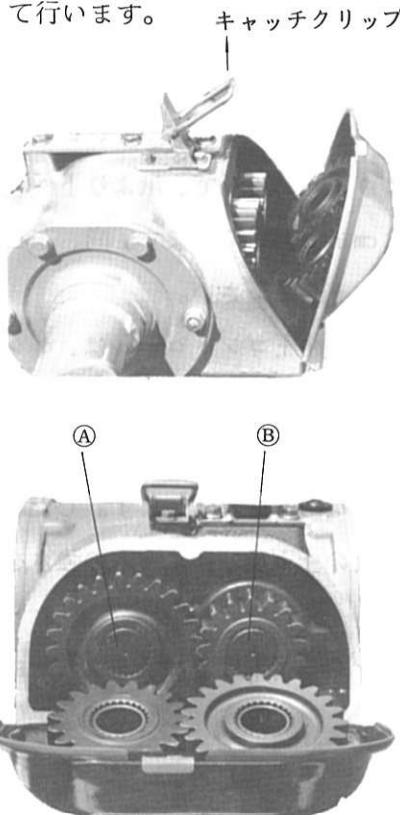
作業目的と耕耘条件に合せ、次図を参考にトラクタ速度と爪軸回転数を調整し、よりよい作業をすすめてください。



(2) 爪軸回転数の選択

爪軸の回転数は、変速ギヤの交換により標準セットで4段に変速できますので、前項を参考にして作業目的と耕耘条件に合せて選択下さい。又、オプションとして別に8段があります。

尚、変速ギヤの交換は、キャッチクリップを外してミッションケースカバーを開いて行います。



変速表	ギヤ組合せ		爪軸回転数 (540rpm時)
	Ⓐ変速軸	Ⓑ入力軸	
標準	26 T	19 T	160 rpm
	24 T	21 T	192 rpm
	21 T	24 T	251 rpm
	19 T	26 T	300 rpm
オプション	28 T	17 T	133 rpm
	17 T	28 T	360 rpm
	27 T	18 T	146 rpm
	18 T	27 T	329 rpm
	25 T	20 T	175 rpm
	20 T	25 T	274 rpm
	23 T	22 T	210 rpm
	22 T	23 T	229 rpm

ギヤの交換が終りましたら、交換したギヤは必ずミッションケースカバーにセットしてカバーを締めてください。

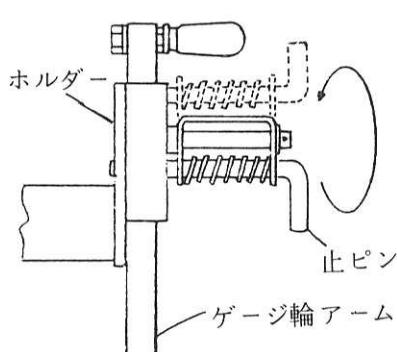
※ LX-G L（外部変速ミッション付）の場合は、シフトレバーの操作で3段に変速できます。

必ず、次の手順で行って下さい。

- ① 油圧を上げてロータリーを地表から少し持上げ、爪にかかる荷重を除きます。
- ② P T Oを切ります。
- ③ エンジンを停止します。
- ④ シフトレバーをにぎってチェンジします。はいりづらい時は、爪軸を少し回してギヤを合せますと楽にはいります。
- ⑤ 各変速位置にシフトレバーが確実にセットされたか確認します。

注 この変速装置はシンクロメッシュではありませんので、ロータリーを回転させたままシフトチェンジをすると変速ギヤが破損しますので注意下さい。

(3) 作業深さの調節



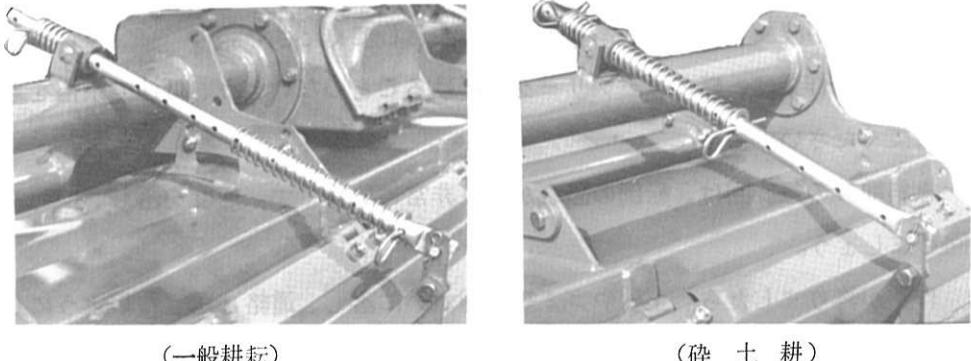
耕深調節は、ゲージ輪を上下して行います。ゲージ輪アームに11個、ホルダーには上下に2個のピン穴がありますので、止ピンの差替えにより15mm開隔で、爪より下へ4.5cm上へ23cmまで調節できます。尚、左右は同一穴にセットして下さい。

トラクタの油圧コントロールは、ポジションコントロールを使用下さい。

(4) 均平板の調節

均平板の調節は、仕上り精度、碎土、反転に大きな影響を及ぼします。したがって連結ロットにセットする7号ローターピンで均平板の上下及び抑えバネの強さを調節します。

調節は下図のように、一般耕耘ではローターピンを一番下げてバネをフリーにし、碎土耕では上げてバネをきかせ抑えを強くします。



(一般耕耘)

(碎 土 耕)

(5) 耕うん部カバー

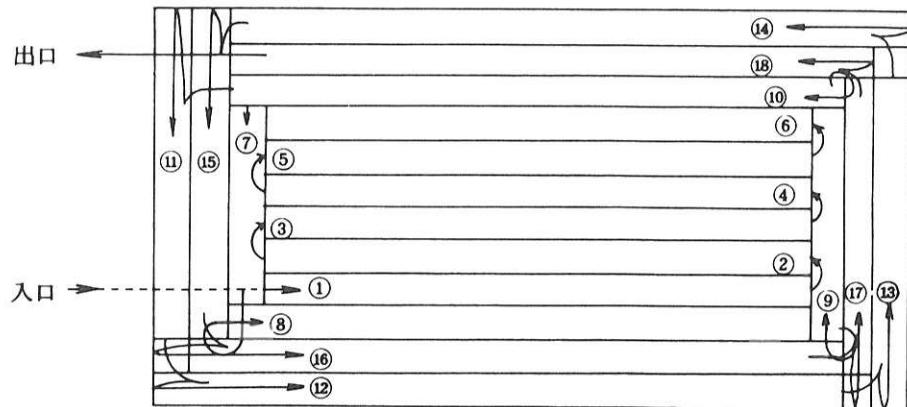
カバーは回転径に合せて上下調節ができますので、花形爪（B 4）、畑用ナタ爪（E 2）の時は耕うん部カバーを下げる下さい。

(6) 延長均平板の使い方

延長均平板は畠地など均平性を向上させるときに使用してください。

(7) 耕 法

耕法は、各地区であった方法が行なわれておりますが、一般的に行なわれている標準的耕法を下記に示しました。参考にして効率よい耕法を身につけてください。



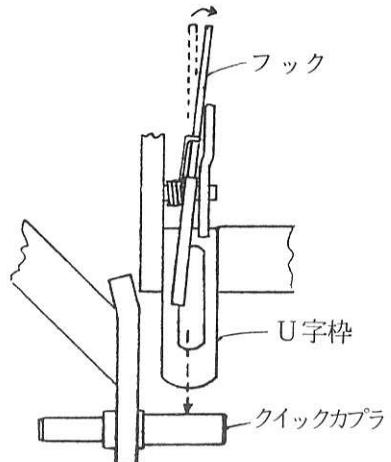
9 作業時の注意

- (1) 運転中は危険ですから、トラクタ及びロータリーの周囲に補助作業者や他人を絶対に近づけないで下さい。
- (2) 整備や調整、又ゴミ等を取り除くような場合は、必ずP T Oを切り、さらにエンジンを停止してから行いましょう。

- (3) 異常が発生したら、ただちに点検整備を行います。そのまま使用しますと、他の部分にも損傷が波及するときがありますので注意してください。
- (4) 畦際での作業は、畦にロータリーを引掛けることのないよう、低速で余裕をもって行ってください。
- (5) 急斜地での急旋回は、転倒の恐れがあり非常に危険です。速度を落し、ゆっくり旋回しましょう。
- (6) 作業が終りましたら、土砂やゴミ等はきれいに落し、道絡に落さないようにします。落して走行しますと違反になります。

10 トラクタからの取外し

- (1) 取外しは、取付の逆の順序で行います。
- (2) 油圧を上げた状態で、フックを引いて図のようにU字枠の側方に引掛けておいてから、油圧を下げますと自然にクイックカプラが外れます。
- (3) 外しても転倒しないよう、安定している状態にしておいてから行いましょう。



11 耕うん爪について

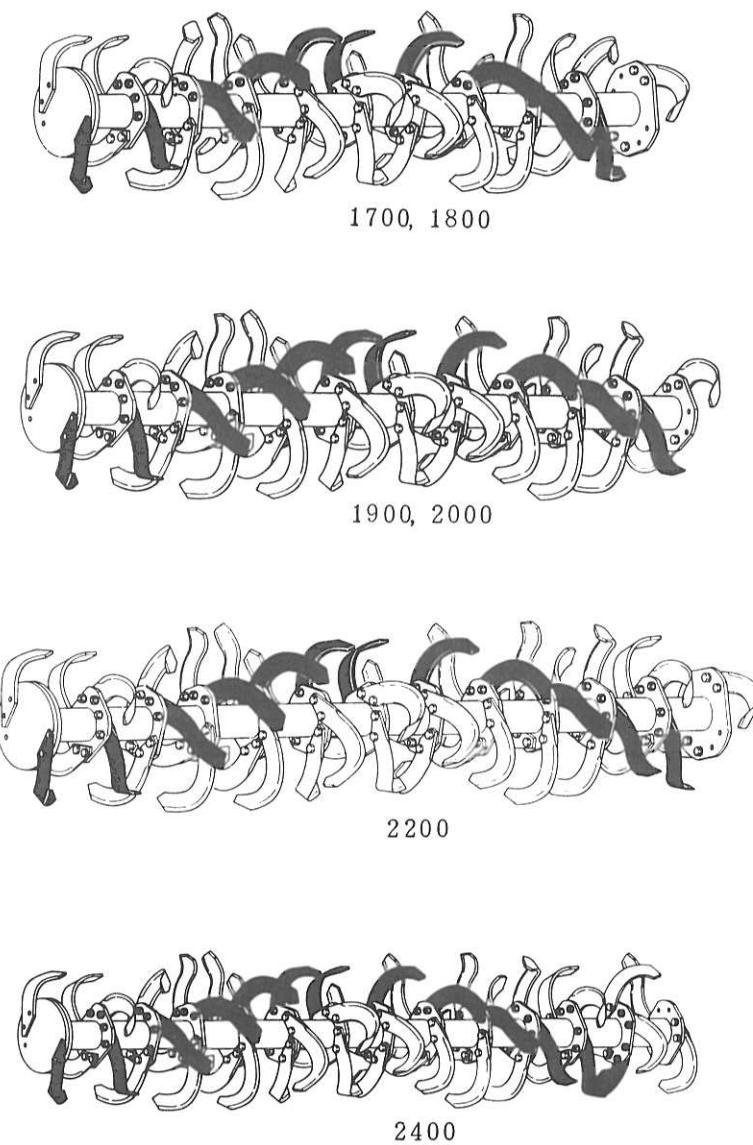
- (1) 耕うん爪には、用途に応じて次の種類があります。
それぞれにL爪とR爪があり同数が付きますが、本数は仕様表を参照下さい。また爪には刻印が打ってありますからそれで判断下さい。

刻印 (種類)	(回転径)	刻印 (種類)	(回転径)
A 7 (汎用ナタ爪) ——	(Ø550)	T 3 (T爪) ——	(Ø540)
A 14 (") ——	(Ø520)	L 6 (L爪) ——	(Ø550)
A 16 (") ——	(Ø580)	M 2 (M爪) ——	(Ø550)
B 3 (花形爪) ——	(Ø500)	E 2 (畑用ナタ爪) ——	(Ø440)
B 4 (") ——	(Ø460)	A S 1 (石レキ用爪) ——	(Ø520)
S 1 (S爪) ——	(Ø530)		

(2) 耕耘爪の配列

耕耘爪は、次の耕耘爪配列図（ロータリー後方より見た図）に従って配列して下さい。

(ロータリー後方より見た図)



左図を参照して次の順序で行います。

①一番左端のフランジには軸を止めているボルト以外に爪の取付穴が2ヶ所ありますから、フランジの左面へR爪を付けて左特殊ナットを重ね、フランジの反対側からバネ座金を入れたボルトを通して取付けます。180°反対側も同時にR爪を取付けます。

②左から順に次のフランジに移り、基準となるR爪（図で黒く塗っている）を図の位置へ取付けていきます。図でわかるように、この爪は山形(↑)の配列になります。ボルトは爪側から入れてフランジ側でバネ座金、ナットにより締付けます。

③一枚のフランジへはRLRLの順に取付けますが、取付くフランジ面が異なり180°反対側は逆のフランジ面になります。

④一番右端のフランジへはL爪を取付けますが、2本ともフランジの右面へ、またボルト

はフランジ側から入れます。

注 ボルト緩み止めのため、メガネレンチで力いっぱい強く締付けて下さい。

また、トラクタエンジンは必ず切ってから行ってください。

12 保 寸 管 理

耐久性を増し稼動効率を上げるために、保守管理は大切です。

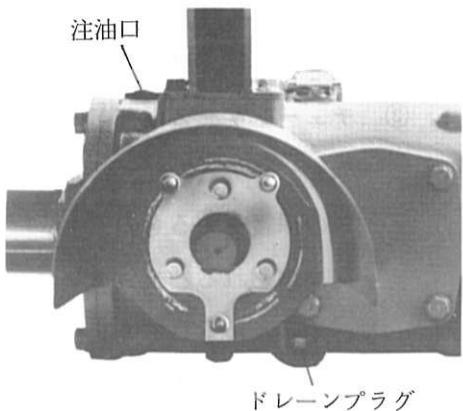
- (1) 作業終了後は、よく水洗いして水分を拭き取っておきます。
- (2) ユニバーサルジョイントは、入力軸から抜き取って保管してください。又入力軸とジョイントのスプライン部にグリスを塗布し、サビが出ないようにして置きます。サビが出ますと取付けが出来ないこともあります。
- (3) オイルの交換

オイルの交換は次の基準で実施します。尚、工場出荷の際には給油してありますから、第1回目の交換時間まではそのまま使用してください。

交 換 蔵 所	オイルの種類	規定量	交 換 時 間	
			第 1 回 目	2 回以降
ミッショングケース	ギヤオイル#90	2.8 ℥ (G L 3.6 ℥)	30時間目	250時間毎
チエンケース	"	1.2 ℥	"	"
ブレケット軸受部	"	充 滿	"	"

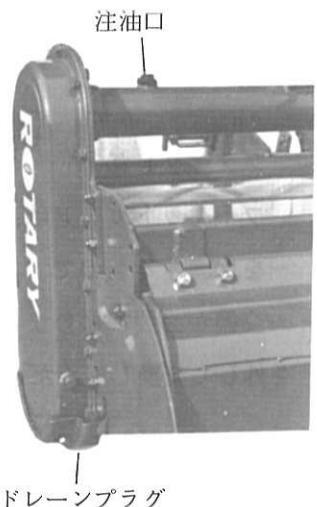
① ミッションケースのオイル交換

図の下端のドレーンプラグを外してオイルを排出し、上の注油口より新しいオイルを規定量給油してください。



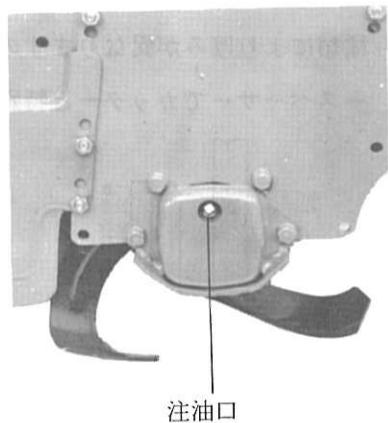
② チェーンケースのオイル交換

図の下端のドレーンプラグを外してオイルを排出し、左フレームパイプの注油口から新しいオイルを規定量給油してください。



③ 右耕耘軸ボスのオイル補給

右耕耘軸ボスのオイルは補給するだけです。尚、オイル量は注油口面まで一ぱいに入れてください。



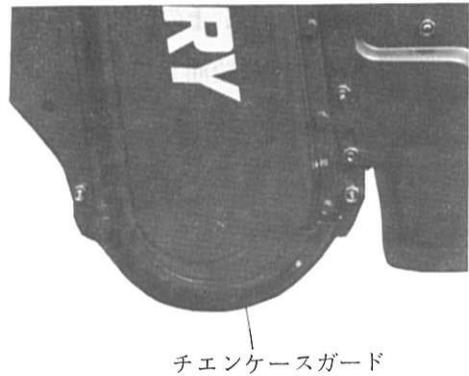
(4) 消耗部品の交換

① 爪の交換は、耕耘爪についての項を参照してください。

② チェーンケースガードの交換

チェーンケースガードはチェーンケースの保護をするものです。

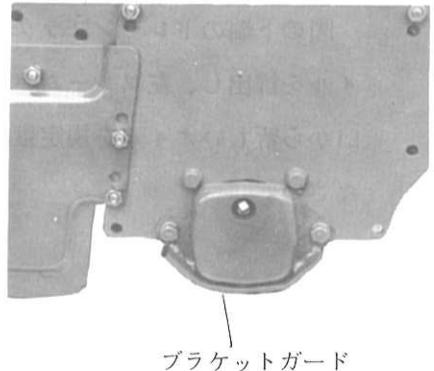
交換が遅れるとチェーンケースを破り、オイルがもれてチェーンやペアリングが破損しますので、必ず点検しスリ減りましたら、ボルトを外し交換してください。



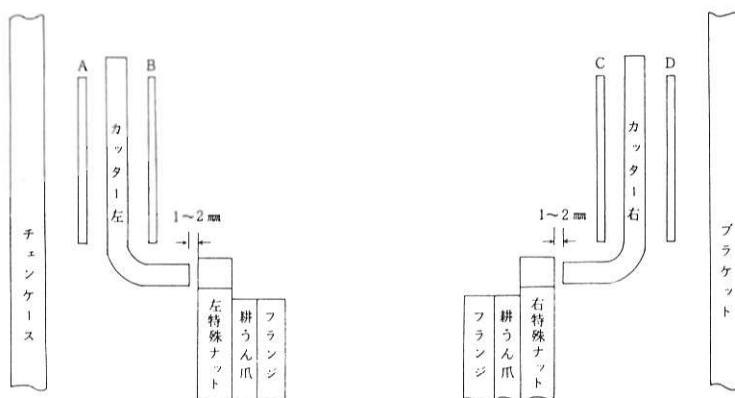
③ プラケットガード

プラケットガードは、右耕耘軸カバーを保護するものです。

交換が必要になりましたら、ボルトを外して交換してください。



(5) このロータリーの耕耘軸受部には草巻防止カッターがついています。耕耘爪は種類により厚みが異なりますので、セットする爪を替えた時は、下表に従がいカッタースペーサーでカッターと特殊ナットの隙間を1mmから2mmの範囲に調節して下さい。



1号カッタースペーサー（1mm厚）

2号カッタースペーサー（2mm厚）

爪種類	場所	A	B	C	D
		1号、2号 各1枚	1号1枚	1号1枚	1号、2号 各1枚
M 2、L 6、B 4、B 3					
A 1 4、S 1、A S 1、T 3、E 2		2号1枚	1号2枚	1号2枚	2号1枚
A 7、A 1 6		1号1枚	1号、2号 各1枚	1号、2号 各1枚	1号1枚

13 格 納

- (1) あらかじめ、トラクタに取付けやすい場所に収納することが肝要です。
- (2) 平坦な地盤のしっかりした、屋根のある場所へ格納しましょう。
- (3) 地面に直接置かず、角材などの上に安定した状態でほぼ水平に置いてください。
- (4) 格納後は、みだりに子供などが触れないような処理をしてください。

14 安全について

以下に45農政2373号より抜すいの農作業安全基準を掲載しますので、必ず遵守してください。

農 作 業 安 全 基 準

(45農政第 2373 号より抜すい)

ま え が き

近年、高性能な農業機械施設の導入の増加等、農業機械化の進展は顕著なものがあるが、これに伴い機械等を使用する農作業従事中又は、道路走行中における事故が急速に増大する傾向にあるため、機械等の点検整備の徹底、農業機械施設の安全装置の向上、農作業の安全確保等の諸点にわたって対策を講じ、事故防止を図ることが農業の機械化を推進するうえでも重要な課題となっている。

この基準は、農業者が農業機械施設を使用して農作業を行うにあたって注意すべき事項を定めたものである。

農用トラクター作業に関する事項

1. 適 用 範 囲

農業用トラクター作業に関する事項は、乗用型又は歩行型の農用トラクターを使用して行う作業（作業機を装着しない場合、及び耕うん整地作業又は、トレーラーを装着した状態の場合に限る。）に従事するものが注意すべき事項を示すものである。

2. 就業者の条件

(1) 農用トラクターを使用する作業（以下「トラクター作業」という。）に従事する者は、運転する機械の操作に十分熟練した者であること。また、運転者は、必要な運転免許証をもっている者であること。

(2) 次に該当する者は、トラクター作業に従事しないこと。

ア. 精神病者

イ. 酒気をおびた者

ウ. 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により正常な運転操作ができない者

エ. 妊娠中の者

オ. 13歳未満の者

3. 保 守 管 理

(1) トラクターの運転者は、トラクター及び作業機の操縦装置、防護装置等危険防止

のために必要な装置を常に点検整備し、正常な機能が発揮できるようにしておく。

- (2) トラクター及び作業機の点検整備及び修理は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行うこと。また、屋内でエンジンを運転して点検整備を行う場合は換気を適正に行うこと。
- (3) トラクターの点検整備は、必ず原動機を止め、駐車ブレーキをかけ、車止めを使う等、安全な状態で行うこと。また、油圧装置で重い機械が持ち上げられている下で作業をしなければならない時は、ロック装置のあるものについては必ずそれを使用し、かつ、さされ棒を使う等、急激な落下を防止する措置を講じて行うこと。
- (4) トラクター及び作業機に取りつけられている防護装置等を、トラクター及び作業機の点検整備又は、修理等で取りはずす場合は、その部分の作動が停止していることを確認したのち取りはずすこと。また、取りはずした防護装置は必ず復元すること。
- (5) 点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、正しく使用すること。
なお、トラクターには、点検調整に必要な工具類を常備しておくこと。

4. 作業機の着脱及び調整

- (1) 作業機の着脱は、平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行うこと。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行うこと。
- (2) 乗用型トラクターを移動して作業機を装着する場合には、トラクターと作業機の間に人が入らないように注意すること。トラクターと作業機の連結に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、この時トラクターは必ずブレーキで止めておくこと。
- (3) 作業機の装着が終った時には、確実に装着されているか、ピンに抜止めピンがしきであるか確認すること。
- (4) ユニバーサルジョイントは、作業中できるだけ真直ぐになるようにトラクターに装着すること。
- (5) 重い作業機を連結又は、装着した場合には、トラクターにバランスウェイトをつけて、バランスの良い状態を保つこと。歩行型トラクターを常時後退耕うん作業に使用する場合にあっては、特にバランスの良い状態を保つこと。
- (6) 運転者が運転位置をはなれて、作業機を調整する場合は、トラクターの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、駆動軸への動力の伝導が継たれてい

ることを確認したうえ行うこと。

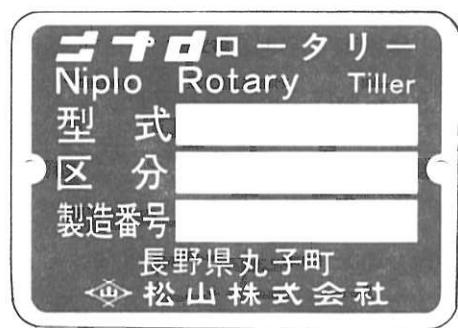
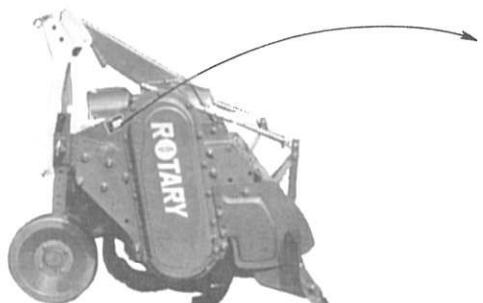
- (7) 作業機の下へもぐったり、足をふみ込んだりしないこと。
- (8) ロータリー耕うん機作業機のカバーは、土礫が飛散しないように調節すること。

5. 運転操作

- (1) 補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように機械を正しく運転すること。特に土礫をはね飛ばすおそれのあるロータリー耕うん作業の場合は、子供達が近寄らないように注意すること。
- (2) 作業又は運行にあたっては、次の事項を守ること。
 - ア. 必要以上の高速運転、急発進、急加速、急制動及び急旋回は厳につつしむこと。
 - イ. 動力伝導装置、回転部等の危険な部分には、接触しないよう注意すること。
 - ウ. 乗用型トラクターの旋回の際に、作業機に人が接触しないよう周囲に特に注意すること。
- (3) 道路走行にあっては、次の事項を守ること。
 - ア. 関係法規を守り、安全に運転すること。
 - イ. トラクターより幅の広い作業機を装置して走行する場合は、作業機の左右の見やすいところに赤い標識（夜間は赤灯）及び低速であることを明示するマーク等をつけて他の自動車の注意をうながすとともに、運転車は幅が広いこと及び、左右に揺動することに留意して運転すること。
また、折りたたみ可能な作業機は必ず折りたたむこと。

15 サービスについて

ご使用中の故障や御不審な点及びサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた購入店にご相談ください。尚ご相談のときは左図のネームプレート内に打刻してある。型式、区分、製造番号を合せてご連絡ください。



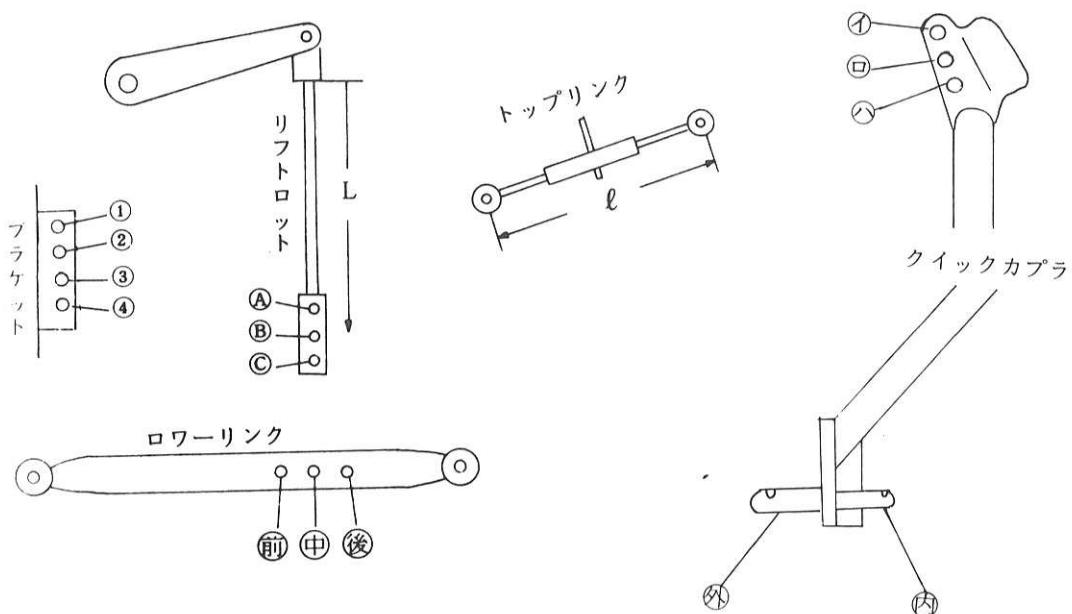
16 付 表

(1) アタッチメント一覧表

分類	品 名	用 途・仕 様	LX-1700	LX-1800	LX-1900	LX-2000	LX-2200	LX-2400
耕耘	耕耘爪 A-14	フランジナタ爪汎用	○	○	○	○	○	○
	" A-16	" " "	○	○	○	○	○	○
	" S-1	" " 碎土用	○	○	○	○	○	○
	" T-3	" " 細碎土用	○	○	○	○	○	○
	" B-4	" 花形爪畑用碎土用	○	○	○	○	○	○
	" E-2	" ナタ爪" "	○	○	○	○	○	○
	" L-6	" L 爪" "	○	○	○	○	○	○
	" M-2	" M 爪" "	○	○	○	○	○	○
	" S-1	" ナタ爪石レキ用	○	○	○	○	○	○
	" B-3	" 花形爪畑碎土用	○	○	○	○	○	○
爪	" HT I	" 棒爪				○		
	耕耘軸	ホルダー用耕耘軸	軽負荷用			○		
オプションギヤ	17 T × 28 T スピギヤ	交換ギヤ	○	○	○	○	○	○
	18 T × 27 T "	"	○	○	○	○	○	○
	20 T × 25 T "	"	○	○	○	○	○	○
	22 T × 23 T "	"	○	○	○	○	○	○
畝立て	プラウ爪		○	○	○	○	○	○
	1 畦リッヂャー	中央引き	○	○	○	○	○	
	3 畦リッヂャー		○	○	○	○	○	○
	片 培 土 機	1 行程 1 ベット	○	○	○	○	○	○
マルチ	平 畝 マ ル チ		○	○	○	○	○	○
	高 畝 マ ル チ		○	○	○	○	○	○
	平 高 マ ル チ		○	○	○	○	○	○

分類	品 名	用 途・仕 様	LX-1700	LX-1800	LX-1900	LX-2000	LX-2200	LX-2400
施肥 ・播種機	塔載型 M-S H 8	モーター式	○	○	○	○	○	○
	牽引型 T K-A R	目皿式	○	○	○	○	○	○
	" T K-A D	ロール式	○	○	○	○	○	○
	" T L S	ロール式	○	○	○	○	○	○
	塔載型施肥薬済散布	モーター式	○	○	○	○	○	○
その他	広角型ジョイント	A R-C V	○	○	○	○	○	○
	ゴムカバー	耕耘部カバー内側	○	○	○	○	○	○
	鎮圧輪			○		○	○	

(2) マッチング表



トラクタ型式	トップリンク 取付穴	リフトロッド 長さ L	ロワリンク 穴位置	トップリンク 長さ ℓ	カプラ 穴位置	ロワピン 位置
T 5000, 6000 6500, 7000	①	Ⓐ 735	後	700	○	外
T 8000	①	Ⓑ 750	後	750	○	外
M 4950, 5950	①	Ⓐ 530	前	630	○	外
M 6950, 7950	①	Ⓐ 600	前	740	○	外
SE 5306, 5346	①	Ⓐ 530	前	669	○	外
SE 7300, 7340 6300, 6340 7900, 7940						
JD 1040, 1140 1640, 2030						
JD 2040	—	Ⓐ 660	—	680	□	外
DB 885, 990 995, 1212						
DB 1390	—	480	—	600	①	内
F 3910	①	Ⓐ 715	中	755	○	外
F 4610	①	Ⓐ 715	中	730	①	外
F 5610	②	Ⓐ 730	中	800	○	外
F 6610, 7610	②	Ⓐ 750	中	720	①	外
MF 240						
MF 265	③	Ⓐ 600	前	788	○	内
MF 275, 290	③	Ⓐ 660	前から2番 目の十六	780	①	外
MT 5501, 6501	①	Ⓑ 650	前	733	○	外
YM 4300						
YM 5000	②	Ⓐ 625	後	710	□	外
YM 6000, 7000	③	Ⓐ 615	前	705	○	外



松山株式会社

本社・工場：〒386-04 長野県小県郡丸子町塩川 2949 ☎(0268)35-0300㈹
北海道営業所：〒068 北海道岩見沢市三条東13-9 ☎(0126)24-6011㈹
北見駐在所 〒090 北海道北見市中之島町39-33 ☎(0157)25-8895
東北営業所 〒989-61 宮城県古川市福葉高田131 ☎(02292)3-7440㈹
関東営業所 〒328 栃木県下都賀郡大平町北武井229 ☎(0282)23-7297
長野営業所 〒386-04 長野県小県郡丸子町塩川 2949 ☎(0268)35-0323㈹
岡山営業所 〒700 岡山市西市4-6-3 ☎(0862)41-4809
九州営業所 〒861-41 熊本市近見町鹿太郎1583-1 ☎(0963)56-4134㈹
南九州駐在所 〒885 宮崎県都城市甲斐元町2130-3 ☎(0986)24-6412